

## Appointment and Web-based Communication Division

2021年8月



-Vol.44-

減量サポート・外科治療センター開設のお知らせ  
当院での新型コロナウイルスワクチン接種の変遷

総合診療科のご案内  
訪問看護ステーションの紹介  
POP(骨盤臓器脱)外来新設について

連携室  
だより



### 人事消息

	新任医師 令和3年7月1日付 麻酔科 飯野 達也		新任医師 令和3年7月1日付 麻酔科 田所 宏彦	
	新任医師 令和3年7月1日付 皮膚科 野崎 尋意		新任医師 令和3年8月1日付 消化器内科 井尻 学見	
<b>退職者</b>				
令和3年6月30日 麻酔科 田中 亮圭	令和3年6月30日 麻酔科 落合 弦	令和3年6月30日 第一救急科 櫻井 圭祐	令和3年6月30日 皮膚科 齊藤 剛史	令和3年7月31日 消化器内科 杉山 祥晃

#### 理念

赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳および権利を尊重し  
質の高い医療を提供します

#### 基本方針

- 1.患者さまの人権と意思を尊重した病院環境をつくります
- 2.急性期医療を中心にして診療を進めます
- 3.救急医療の充実に努めます
- 4.地域の医療機関等との連携を推進します
- 5.国内外の災害時の医療救護活動に貢献します
- 6.職員の教育、研修を充実させます
- 7.健全経営に留意して、その結果を社会に還元します

#### 私たちが患者さまの権利を尊重します



#### 旭川赤十字病院職員行動規範 5つの約束

- 1.私たちは、来院される方と職員に笑顔で挨拶をします
- 2.私たちは、初対面の患者さまに、自己紹介をします
- 3.私たちは、電話の最初に、部署と名前を名乗ります
- 4.私たちは、患者さまに診察や説明をしたあとに「何かわからないことやご質問はありませんか?」とお尋ねします
- 5.私たちは、院内で迷われている皆様にお声掛けをしきご案内します

#### 編集後記

当院では、9月の病院機能評価受審へ向けて、各部署が協力し合いながら準備を進めているところです。当院ホームページからは前回の病院機能評価の評価・指摘事項等が閲覧可能です。

(発行)

### 旭川赤十字病院 地域医療連携室

〒070-8530 北海道旭川市曙1条1丁目1番1号

tel.(0166)22-8111(代表) fax.(0166)22-8287(直通)

URL <http://www.asahikawa.jrc.or.jp/> Email [renkei@asahikawa.jrc.or.jp](mailto:renkei@asahikawa.jrc.or.jp)

# 減量サポート・外科治療センター開設のお知らせ

この度、当院にて、道内初の減量手術センターとして、減量サポート・外科治療センターを開設いたしましたので、その紹介をさせていただきます。

肥満症は糖尿病、高血圧、高脂血症、睡眠時無呼吸症候群などの生活習慣病の一因となっており、その結果、心筋梗塞、脳梗塞等の命に係わる疾患を引き起こします。日本においても食生活やライフスタイルの変化から確実に肥満人口の割合は増加しています。肥満症治療の中心は食事、運動、薬物療法などの内科的治療ですが、95%は長期的な体重減少を維持できないでいます。現在、長期的な体重減少を維持する有効な治療法として肥満外科手術が日本でも注目されています。北海道では2016年に北海道大学病院消化器外科Ⅱで開始されましたが、札幌以北では肥満外科手術を行っている施設がありませんでした。

本手術の施行後、リバウンド予防のために5年は同施設で治療を継続する必要があります。道北地区の患者様にとって、5年間の札幌への通院は時間的、経済的負担が多いため、より軽い負担でこの治療を受けていただくために、当院にて本手術を導入することといたしました。現在、札幌以北の道北地区では唯一の施行施設となっております。患者様には保険診療として治療を受けていただくことが可能です。適応は以下の通りです。

## 〈肥満外科手術適応〉

- BMI35以上で、糖尿病、高血圧、脂質異常症、睡眠時無呼吸症候群のいずれかを有する
- BMI32.5～34.9 /m<sup>2</sup>以上  
（糖尿病HbA1c8.4以上かつ高血圧  
or脂質異常  
or睡眠時無呼吸症候群のいずれか1つ）

減量サポート・外科治療センターメンバー



当院では肥満外科手術として腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を2019年11月より開始し、以後症例を重ね、現在まで7例の方に手術を施行いたしました。7例の方の内訳ですが、男性6名、女性1名、平均年齢42歳(26-58)でした。手術時間154分(126-198)、出血量0ml、合併症はいずれもなく、平均在院日数6日でした。術後の体重減少率24%(8-34)と非常に良好な結果が得られています。体重減少だけではなく、併存疾患の糖尿病、高血圧、脂質異常症、睡眠時無呼吸症候群に関しても詳細は割愛しますが、治癒もしくは改善した結果が得られました。肥満外科治療において良好な結果を出すには医師だけではなく、看護師、薬剤師、栄養士、運動トレーナー、検査技師の連携が不可欠ですが、幸い当院には情熱に溢れた非常に優秀なスタッフが揃っており、チーム医療により

良好な結果を出せています。この度、このチーム医療をさらに強力に行うために減量サポート・外科治療センターを開設することといたしました。なお、睡眠時無呼吸症候群の管理において、なかの呼吸器科内科クリニック院長 中野 均先生に、腰椎症や膝関節症の管理において、進藤病院理事長 進藤 正明先生にご協力いただき、患者様の治療を行わせていただきます。センターを受診することにより、初診時から多職種が関与させていただき、患者様の健康寿命に貢献できるよう治療を行わせていただきます。減量もしくは減量手術を希望される方は毎週火曜14時より減量サポート・外科治療センターにて診察させていただきますので、適応患者様がいらっしゃいましたら、ぜひともご紹介をお願い申し上げます。

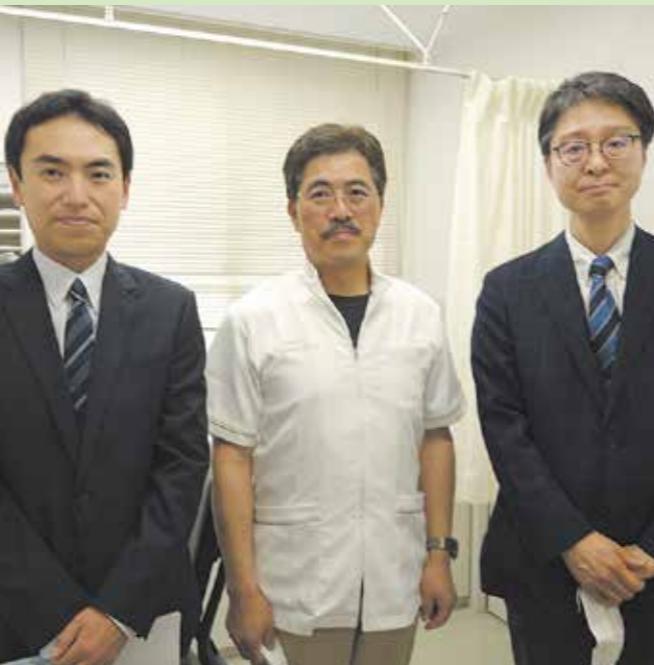


外科 山本 和幸

## 減量サポート・外科治療センター

センター長／副院長 真名瀬 博人  
副センター長／糖尿病・内分泌内科部長 安孫子 亜津子  
副センター長／外科 医師 山本 和幸

なかの呼吸器科内科クリニック院長 中野 均先生(中央)



進藤病院理事長 進藤 正明先生(中央)





## 当院での新型コロナワクチン接種の変遷

新型コロナワクチンは現在の新型コロナウイルス感染症の根本的な対応策であることは周知の事実です。当院は、ワクチン接種の基幹型病院に指定いただいたので5月13日より65歳以上の旭川在住外来患者を対象に予約受付を開始しました。未知のワクチン接種であったため、問い合わせに対する専任職員2名を配置しました。副反応時や帰宅後の問い合わせなどの色々な疑問点に対しては医局会や業務連絡会などで職員に周知徹底を図りました。接種会場の運営については、効率的な接種方法と被接種者の安全管理をポイントに考えました。まず高齢者が接種対象であることから被接種者は受付を済ませたら

会場内の所定の椅子に座っていただき、問診医、ワクチン接種看護師、事後説明職員が被接種者の席を順次回っていくという回游方式をとりました。この方式でスムーズな人の流れと転倒事故防止が可能と考えました。

5月24日より1週240名のワクチン接種を予定していた矢先、5月16日に「緊急事態宣言」が発出されました。当院ではこの宣言を受けて検診センターの当面の停止を決定しました。これによりワクチン接種を行うスペースが確保できたため急遽、健診センターを利用した平日260人、日曜日500人規模の接種を予定しました。1週間当たり240人→1800人接種への急激な拡大にはか

なりのマンパワーが必要でしたが、事務職、看護職、医師ともに率先してこの接種プロジェクトに参加してくれました。特に事務職は予定の急な変更に対するため本当に大変だったと思います。6月には旭川市内でのワクチン接種も急激に拡大しておりましたが当院でもさらに接種を進めるため、7月10日より毎週土曜日の接種も追加し、65歳以下の通院患者へ対象を拡大していきました。このようにワクチン接種が進むと次に問題となるのが、ワクチン接種のキャンセルによる端数の発生です。端数ワクチンの被接種者は当日にならなければ人数が決定せず、また短時間で病院に来てもらえる人でなければなりません。当初は病院職員家族にお願いしていましたが色々と考えた結果、タクシー協会を通じてタクシー運転手さ

んに端数発生時に来ていただく事としました。これは職業柄、社会的にも早期のワクチン接種が重要と考えられたからです。このような方法も職域接種の一助になればと思っています。現在は、ワクチン供給が制限されているためどこの医療機関も十分なスピードでワクチン接種はできない状況ですが、この困難な状況下でも旭川市全体のバランスを見ながら当院のワクチン接種体制を考えていきたいと思っています。



副院長 小林 岩



# POP(骨盤臓器脱)外来新設について

第一産婦人科部長 中田 俊之

## 骨盤臓器脱とは

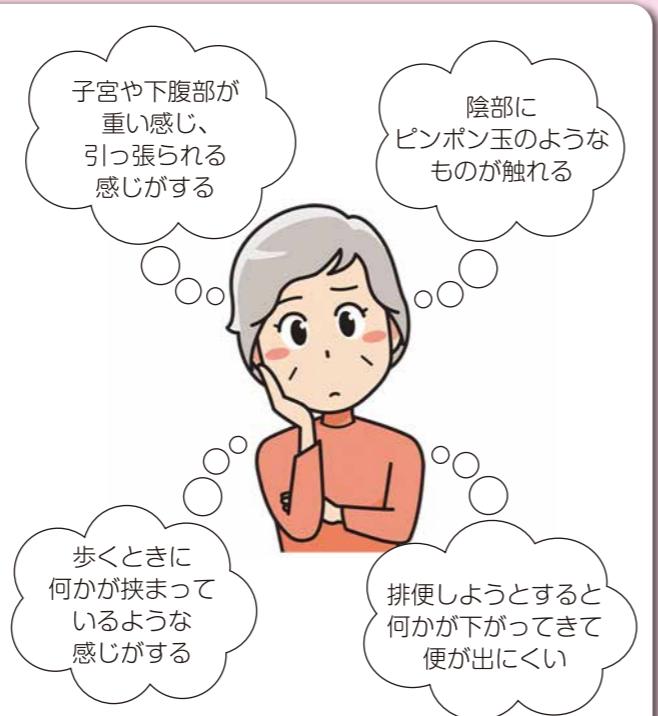
骨盤臓器脱(pelvic organ prolapse:POP)とは、女性の骨盤内臓器を支持している韌帯や筋膜などの組織が脆弱化することによって引き起こされ、膀胱、子宫、膣壁などが腔内を下垂して腔口から脱出する状態で骨盤底のヘルニアであります。症状は下腹部や会陰部の違和感や下垂感などで、夕方になると症状が増悪し、入浴時に会陰部にピンポン玉のようなものを触れるなど訴えることが多い。進行した際には排尿困難や排便困難の原因ともなり、また膣壁が下着にすり出でて出血し日常生活を大きく制限されることもある。特に高齢女性は羞恥心から受診をためらうことや、夫や親の介護に追われなかなか自分自身

の身体に時間を割けず受診が遅れてしまい、重症化してから受診するケースも少なくないです。大きな都市では本疾患専門の施設もできており、多くの患者さんがその恩恵を受けられております。しかしながら、旭川を中心とした道北地区において専門外来はなく、札幌を含む道内においても、手術を中心とした骨盤臓器脱を扱う施設はあるものの、非観血的治療を含めた診療を行なっている施設はなく、多くの患者さんが本疾患に悩んでおられる状況と考えられます。

以上より、今回当産婦人科にて骨盤臓器脱の専門外来を新設することとなりました。

## POP(骨盤臓器脱)外来のご案内

POP(骨盤臓器脱)外来とは、尿もれや骨盤臓器脱でお困りの方に、症状緩和・維持目的で患者様の生活に合わせた骨盤底筋の訓練や生活指導を行う外来です。当院では外来女性看護師による骨盤臓器脱の相談外来を実施しています。マンツーマンで行うので安心してゆっくりと相談や指導を受けることができます。右記のような症状があつたら骨盤内の臓器(子宮や膀胱や腸)が下がってきている可能性があります。日常生活で支障を感じている症状を緩和するための装具(リングペッサリーや補助下着)の選択や体操指導、生活指導を行います。まずは医師の診察が必要で、予約制となっております。(毎週月・水・金曜日 PM14:00～16:00 自由診療)診察時に方針を決定しPOP外来の日程を決めます。詳細はお電話にて伝えさせていただきますのでお問い合わせください。



## 産後サポートのご案内

当院は医師の減少に伴い、令和2年12月にて分娩の取り扱いを休止することになりましたが、産婦人科外来での産後支援業務は継続しております。

『母乳外来』『電話相談』『産後健診』に加え、6月よ

り旭川市産後ケア事業の日帰り型の対応が可能となりました。ご利用希望又は詳細を知りたい方は産婦人科外来までお問合せ下さい。

## 総合診療科のご案内

総合診療科部長 山崎 弘資

診療教育があります。研修医の先生から教えられることが多い毎日ですが、これまでの教育現場での経験を生かして研修医教育にも努めてまいりたいと思っております。

今後も関係各位の皆様のご高配を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



総合診療科は本年1月の開設以来、半年が経過いたしました。この間、多くの医療機関より患者の紹介をいただき、また、関係各位から多大なるご支援、ご協力を賜ってまいりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

総合診療科と類似した呼称に総合診療内科、総合内科などがあります。また、医療機関により総合診療科が取り扱うテリトリーも様々であります。当院総合診療科は、連携室だより第42号で牧野院長が述べられているように、「病院への紹介が必要だが紹介すべき診療科が特定できない」「診療科はある程度予測しているが専門科への紹介が適當かどうか疑われる」など、従来当院で対応しきれなかった分野に対応する新たなgatewayを目指して開設されました。専門診療科の隙間を埋める、敷居の低い紹介窓口との位置づけです。また、私が外科出身であることもあり、総合診療内科、総合内科ではなく、外科的病態にも対応可能な総合診療科を目指しています。

総合診療科のもう一つの役割として、研修医の外来

## 医療支援センター 訪問看護ステーションの紹介

医療支援センター  
訪問看護ステーション管理者 五林 郁子

師の手順書に基づきインスリン調整に携わっています。訪問時に相談を受けながらインスリン調整ができるので利用者、ご家族からは相談しやすく安心だとの言葉をいただいています。地域のクリニックと連携した実績もありますので是非ご相談ください。

訪問看護利用にかかるご連絡は  
電話0166-22-7218(直通) FAX0166-22-3375  
どうぞよろしくお願いいたします。



また、昨年5月より「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」の特定行為研修を修了した看護師1名が医